



例会報告 Rotary



イマジン ロータリー

職業奉仕委員会

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 会長 垣内 秀文
- 例会場 高山市花里町3-33-3 TEL 34-3988
- 幹事 大村 貴之
- 大垣共立銀行高山支店 4F
- 会報委員長 中島 一成

<会長の時間>

政治学者イアン・ブレマーが率いる国際的なコンサルティング・ファームであるユーラシグループは2023「TOP RISKS 2023」を公開しました。



これはご存じのように毎年恒例のもので、昨年2022年は主なものでリスクNo1に中国のゼロコロナ政策の失敗、No3米中間選挙、No5にはロシア問題と悉く予測的中していました。

2023年も注目されており、リスクNo1の「ロシア」は世界で最も危険な「ならず者国家」ウクライナから撤退はないと予測しました、No2には「中国の習国家主席」で権力は集中したが「大きなミス」の可能性も大いに有ると、そしてNo3にAI「人工知能」で自動生成される偽情報の拡散で社会の混乱を招く恐れがあると予測されています、本日はこれについて少しお勉強したのでお話ししたいと思います。

自動生成されるものとして「大混乱生成兵器」と呼ばれておりますものがあり、それはAIがアシストするデジタル影響工作ツールを指すようで、しばらく前からAIによって影響工作が高度化、大規模化することは指摘されてきて2023年にそれが本格化するという指摘のようです。

トランプ大統領の2016年の選挙で話題になったフェイクニュースがよく知られていますが、最近も偽のゼレンスキー大統領が「戦いをやめて降伏するよう」呼びかける動画がありそれは「ディープフェイク」というAI技術で作られました。

ロータリーには陰謀者はいないと信じていますが、RI会長ジェニファー・ジョーンズさんのテーマ「イマジン」にしても、「想像は今すぐお止めなさい、あなたがいくらベストを尽くそうとも、私たちが朝目覚めた時も、世界は特に変わっていませんから」といったフェイク映像も簡単作成され、もしも現実ともなればRIも各クラブも大混乱となってしまいます。こうしたアルゴリズム（計算方法）とフェイスブックやTikTok等のSNSを使った影響工作が国家だけではなく、個人でも手軽にできるようになりつつある不安な現状を指摘しています。

これまでは影響工作の主役は国家や、政党或いは委託を受けた民間企業などだったのですが、既に一部の個人が本格的に使い始めており、You TuberやTik Tokerが金儲けのためにこうしたツールを一斉に使い出すのは、もったもありません。そうで想像したくない状況で有ると言えます。

その量を想定するとファクトチェックやSNSプラットフォームの検出では太刀打ちできず、こちらもAI支援の自動対処に頼らざるを得ないのが現状で、金儲けならまだ良いと思いますが、一部の個人が例えば極端な思想を持つ人や、陰謀論者が使用する可能性は高く、彼らは現時点でもネットを基盤にしおり、ツールさえ手に入れば実戦配備できる環境を持っているので物理的な武装化が進んでいることと合わせて考えると何か胸騒ぎがします。

AIの飛躍的な発達で技術革新が進み、我々はその恩恵にあずかり、ロボットによる自動化、さらには高齢化・介護問題、人手不足など、ここ数年で社会を取り巻く環境は劇的に変化しています。そうした環境に合わせた柔軟な対応がいま広く求められていますが、私達人間にはヒューマン・エラーがつきものです

例えば検査の場合、人による異常検知とは、主に目視などによって製品や設備などの異常を発見することですが、AIによる異常検知は正常な製品や設備のデータを読み込ませることで、その差異から異常を検知されます。人の目視に頼る場合、経験の差やコンディションなどによって検知の精度に差が生じます。しかしAIを用いれば、安定したレベルでの異常検知が可能となります。

今後10~20年で日本の労働人口の約半数にあたる49%がロボットやAIに代替可能だとされています。又2045年にはAIが人間の知能を凌駕する「技術的特異点」に到達するとも言われています。ただ、約半数の仕事がAIに置き換え可能としても、残り半数はまだ置き換えできず、人間の能力が求められているともいえます。

つまりAIの強みとともに苦手な分野を把握し人間との住み分けを図ることが重要であり、明確な答えが存在しない創造的な作業などは、人間の方が得意な分野といえるため、その唯一と言えるAIには無い長所を伸ばしながら、アーノルド・シュワルツェネッガーの映画「ターミネーター」のような世界にならないよう、AIを間違えずに上手く活用していくこと、一人一人の知性が重要だと思います。



<幹事報告>

◎高山市民憲章推進協議会より
・令和5年度花の種・苗の申込について
提出期限2月14日(火)

<例会変更>

高山中央 … 2月6日(月)は、定款により休会
2月13日(月)は、節分例会のため
18:00~ 飛騨総社および山陣へ変更
2月20日(月)は、定款により休会

<受贈誌>

高山RC(会報)、下呂RC(会報)、台北市松年福祉會(玉蘭荘だより)

<出席報告>

出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
30名	-	30名	36名	83.33%

例会報告

<本日のプログラム>

職業奉仕委員会

職業奉仕委員長 田中 晶洋

今日は、一般社団法人もちもちびと代表 野中 桃子様と、自立訓練生活訓練「ひるねこ」管理者の野尻 牧 様にお越しいただきました。もちもちびとについてご紹介しますと、一般社団法人もちもちびとは2017年6月に設立されまして、最初は就労支援b型事業所ひるねこという形で開所されましたが、2020年3月に支援内容を変更されまして自立訓練生活訓練ひるねこと言うことで開所されました。自立訓練生活訓練とはどんな事業なのかと思ひまして調べましたところ、精神障害者に対する自立した日常生活社会生活を営むために必要な訓練や生活相談、助言などを行う事業だそうです。精神面で休職されたり、就職が難しい方が非常に増えてきてまして、私の周りにもけっこう引きこもりの方がいらっしやったり、精神病んで休職しているよというような方もあります。実はうちのスタッフでも精神を病んでひるねこさんにも通いながら、うちの事業所にも通って来てくださる方もあります。その人の紹介で本日お招きすることができたということです。実際に経営する側からどう変わったらいのかとか悩まれるケースも今から出てくると思いますので、休職される方はどんな風なことを考えていらっしやるのかとか、経営者としてどう関わっていけば、ということについて学ぶところも多いと思いますので、耳を傾けていただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。



一般社団法人もちもちびと 代表 野中 桃子 様

この度はこのような席におよびいただき、田中さんとのご縁がありたく思います。私ども今紹介いただいたように、一般社団法人もちもちびとは5年半から6年前に私含めて三人のスタッフで立ち上げました。きっかけとしては、私の周りにも生きづらさを抱えた人が多かった中で、障害福祉の分野の中で、精神障害が障害として認められてサービス化されてきた中で、何かできることがあるのではないかと思ひ立ち上げることになりました。今約6年経ちまして、現在のスタッフが9名になりました。メインの事業が今ご紹介あった障害福祉サービス自立訓練ひるねこと言うところで、大人の18歳以上65歳以下の精神疾患を患った方、また、発達障害と、高次脳機能障害という脳梗塞や事故で脳に障害負われて記憶障害などある方を対象としています。一年半ほど前から、もう一つ子供の方の発達障害、情緒に課題を抱えた子どもたちの放課後等デイサービスを岡本町でやっています。その事について、また後程説明させていただきますが、この二つというのは、福祉事業を利用してその方たちに伝わる事を、という想いでやっていますが、そもそもの会社の理念としては、この地域が、みんなが生きやすくなる。誰もががあるがまま生きていける世界を目指して行っています。ですので、福祉事業以外のところで様々なイベントを行って、町の方とつながったり、こういった話題を表に出していくことも、私たちの仕事だと思っています。



毎月三つの座談会やっています、チラシを入れさせていただきましたが、以前田中さんも参加して下さった、色んな人座談会。こちらは障害分野の方だけで話しているのではなく、街の中に起

っていることとして、様々な分野の方に参加してもらって、この街がより皆さんに、誰もが幸せに感じられるような地域になるよう話をしています。あとは当事者の方、親さんの困り感を共有する場としての親の座談会というのをやっています。そういった活動の中の一番の長い柱であるひるねこについて、今から野尻から説明させていただきます。

自立訓練生活訓練「ひるねこ」 管理者 野尻 牧 様

皆さん初めまして、私たちは一般社団法人もちもちびとと申します。代表の野中桃子とスタッフの野尻牧と申します。本日はよろしくお願ひいたします。

神明町で、自立訓練ひるねこという 障がい福祉事業所を運営しています。中橋のそばの神明駐車場の並びにあります。おおきな猫がいるのを見かけている方もいらっしやるかもしれません。パンフレットをお配りしております。良かったらご覧ください。



私たちの事業所の対象となる方は、精神疾患を抱えている方、精神面の生きづらさを抱える方です。皆さん、ぱっと見では障害を抱えているとはわかりにくい方たちです。精神疾患は、人生の中で起こる色々なつらい出来事が原因で誰にでも起こる病気です。街で見かける誰でも、私たちでも、同じようなつらい状況になれば、同じ境遇になる。そういうごく身近な障害です。

私は千葉県出身で25年くらい高山に住んでいます。高山に住む人たちは、このところのような寒さに耐えて、雪かきをしたり、隣近所の方と協力して暮らしていくための礼儀やしきたりを大切にされていますよね。それが昔から日々の生活を支えてきた街だと思います。まじめで、気遣いがある、忍耐強さが根付いている方々が多いなあと思っています。責任感が強くって、我慢しすぎる。こうしんならん、そんなわけにいかん、やらんならんと おおきなストレスを抱えている人。皆さんや周りの方にも少なくないのではないのでしょうか。今日は私たちが関わっている精神疾患についてお話ししていきたいと思いますが、是非、会社の方やご友人、ご家族、またご自身のこととして、身近な方をイメージしながら、聞いていただけたらなあと思います。

精神疾患を抱えている方にもいろいろなタイプの方がいらっしやいます。皆さんが良く聞くものとしては、うつ病、躁うつ病、摂食障害、パニック障害、統合失調症、等の病名があると思います。そういった状態になっている方には当然ですが、そうなった理由があります。

例えば、家族関係や生育状況の難しさがあった方。親子関係の中で自分を理解されず、自分のやりたいと思っていたこと進学・就職・夢を反対されてできなかったことありませんか？それが大きなトラウマになって発病し長く動けなくなる方も決して、少なくありません。自分の大切なこと強く否定されることは、人の心に大きな傷を残すものなんだと日々実感します。親のいう事だから、子供のいう事だから、分かり合えないことが本当にあるな〜と、結婚されてからも、DV、子育ての中でのストレス。介護仕事上のハラスメントや ストレスなど色々なきっかけで発病します。

家族関係の他にも発達特性を抱えている方。例えば、コミュニケーションがとて苦手、忘れっぽい、細かい作業がとて苦手な方。敏感な特性を持っている方は、大きな音や、光、触感、味、温度にも敏感。そういった方は人の気持ちにも敏感に反応されます。逆に人の気持ちがわかりにくい、空気を読むのが苦手な相手の言葉通り

例会報告

にしかとることができないそういう方もいます。苦手なことが大きい反面、得意なこともあり最近では凸凹のある人なんて言い方もされています。発達特性はそれ自身が病気ということではありません。

こういった特性は多かれ少なかれ、みんなの中にあるものですが、その度合いが大きいと環境に合わせられないことも起こり、2次障害として、精神疾患になる事があります。大きな音が苦手な方は、大きな音のする工場で働くのはつらいですよ。でも、その方が細かい作業が得意なら、耳をふさぐものをつけることが許されたらその方はできることがあるかもしれないですよ。仕事の上で、お互いに理解をして、相談しながら働けたら。そのために福祉では他の事業と連携しながらお仕事にチャレンジしていく仕組みもあります。本日参加の方の中にもご存じのいらっしゃるかもしれませんね。ひるねこに通う方の中には履歴書にまじめに書けばたくさんの経歴を書かなければいけない方もいます。皆さんそこでも、悩まれます。でも、履歴書に沢山の経歴があることは、その人に合った職業につけるまで何度もあきらめずに頑張ってきたという事だと思っただけなら、とても嬉しいです。

ではそのような心の傷を抱える方たちと私たちの事業所がどんな取り組みを行っているかお話ししたいと思います。

それぞれの方と関わる前に、その方の困っていることを伺います。皆さんの困りごとはそれぞれです。その方のその時の困り感に合わせて支援計画を立てます。自立訓練という事業には、通っていただく通所と必要ならご自宅へ伺う訪問の二つのサービスがあります。はじめは、おおきな不調の状態からスタートしますので本人のペースを優先します。焦っても、不調を繰り返してしまうだけなので、来られるときに来ていただきます。週に一回しか来られない人、月に一回しか会えない方もいます。人との関わりが必要な方は他の利用者さんやスタッフとコミュニケーションを取って過ごしたり。一緒においしい食事をとったり、不安な思いを個別面談で受け止めます。時間をかけて、安心できる関係性・信頼関係を作っていきます。皆さんもそうだと思いますが、理解してくれない人に相談したいとは思いませんよね。安心できる時間と関りを重ねながら、精神的に安定してきたところで本人にあった、住まい、就労、医療、福祉サービス、がどんなものか、検討を繰り返し出来ることからサポートします。

安心できる環境と理解者があれば、皆さん、自分で考え、歩きだす力を取り戻していきます。もちろん、そんなにまっすぐに、皆さん進んでいけるわけではありません。季節による不調や、家族との関係、トラウマによる気持ちの波、そういったことから動けない時期も必ずやってきます。落ち込んだり、不眠になったり、体の痛みで動けなくなったり、時には死にたくなることもあります。

皆さん高山市の自殺率をご存じでしょうか？国や県の基準よりもずっと高い自殺率を示しています。男性が7割という数字も出ています。思い当たる事ありますか？私たちはそういった気持ちと向き合う機会の多いお仕事になります。皆さんも周りで経験したことがありますでしょうか？何か新しいことに取り組んで、どこかで限界が来るともう終わりにしたい、死にたいと連絡が来ることがあります。そんな時はとにかく、ご自宅に駆けつけることもあります。すでに薬やお酒を飲みすぎていることもあったり、刃物で体を切りつけていることもありました。とにかく本人が落ち着くまで寄り添って、長い時間を過ごします。まともな話は出来ませんが、その時に話せる限りの思いを聞きます。落ち着いたら、少しの不安は残りますが、その人を信じて帰ります。翌日になると、大体の方は冷静さを取り戻します。その限界点が何だったか、やっとその時話すことができます。大変なんですけど、それも大きなステップなんだと感ずることが支援の中での実感です。限界点にはその人が今まで言葉にできなかった本当の気持ちがあぶり出されます。そこに大きな価値があって、そこを発見できたことで、その人の人生は大きく一歩前進します。大変だけど、面白い、そんな仕事です。

実際、もしその方がなくなっていれば周りの方も大変つらい思いをされます。ご遺族が精神疾患になる事も起こりうることです。自殺について考えるときに思うのは私たちが関わっている人だけでなくこれは町全体の問題だという事です。精神疾患で動けない人が増えていくと起こる事は何か。自殺が増えれば人口が減ります。皆さん会社経営に携わっていらっしゃると思いますが、労働人口が減っていきます。婚姻率も下がります。当然、出生率も減っていきます。増えるのは医療費の負担くらいです。現実には深刻ですが、でも、はじめにお話ししたように、精神疾患は、生活の中で起こります。

だんだん降り積もっていく苦しさの初めの方で隣にいる人に話を聞いてもらえたら、それがまちのいろんなところで起こったらそれだけで、重度の精神疾患になる方は減っていくと思っています。ただ誰でも相談できる人を持っているわけではないのも事実です。そのためにひるねこがあります。

皆さんの周りにいる方たちをイメージしてください。ぜひ、表情を見てお話の機会を持ってください。ご自身も、大変なお仕事を抱えて見える方も多くと思います。一人でも多く相談できる人を思い出して相談してみてください。その人のことを一番わかっている人がその人のカウンセラーだと思います。理解者になってください。そしてまずはご自身の心を大切にお過ごしください。私の話は以上です。ここからは代表の野中桃子にバトンを渡したいと思います。



今大人の精神疾患の方のひるねこの関わりだったり、現状をお話させていただいたんですけども、初めに少し話させていた、子供の事業についてお話させて頂きたいなと思います。今日そちらのパンフレットを持ってきていないのですが、事情があります。

子供の方の発達障害・情緒障害の事業を始めた理由は、今ひるねこに通われている方の半数位の方は小、中学校時代から何かしらの生きづらさを抱えていた。その頃、まだ発達障害という概念があまり表だって無い時代でもあったんですけど、やっぱりコミュニケーションが苦手だったり、得意不得意の凸凹が大きかったりとか空気が読めなかったという事でいじめに遭ったり失敗が多く、怒られ続けて不登校になると言う方もいらっしゃいました。そういった方々が、その子供の頃の生きづらさを引きずって、その先に二次障害になって、ひるねこに通われているという現実があります。本当に最後の行く所が無い、という方をひるねこで待っているだけではなくて、もっと子供の頃、その子がそのまま、ありのまま生きていく時に関われたら、そこに理解者ができたら二次障害は少なくなるんじゃないか、という希望を持って一年半前にスタートしました。ただ、福祉サービスというのは医師の診断書や意見書が必要で、親さんの中には、うちの子は大丈夫なんだというふうに言うお医者さんにかかることを拒んだりすることもあったりして、同じ症状を持っているお子さん必ずしも誰もが福祉サービスを使える訳ではありません。こういった状況で不登校がとても増えているんですけども、そういった人たちのことを考えて、もう一団体ほかの団体をつくりまして、そちらの方でフリースクールを運営しております。同時

例会報告

にやることで、どちらにも関わりを広げられるということだったり、発達特性が強ければ福祉サービスの方に紹介したり、まず相談、会ったときに入口としてフリースクールを紹介したいと言う形でやっておりました。ただ一年半前の9月、始めて半年も経たないうちに、財源だったり、待機児童の問題からと思われしますが、高山市から制度の変更を言い渡されました。障害の重さというか、本来は重さというものが測れるものではなく、それぞれの社会との狭間で障壁があるから障害ということなんですけども、外から分かりやすい、というか、身体障害知的障害の方は今まで通り毎日使えます。しかし、発達障害・情緒障害の子は、今までは必要であれば毎日通えたものが5日間とか10日間、これまでの半数場合によっては1/4ぐらいの量しか使えないと、そうでなければ回っていかないということで、急な制度変更となりました。そういったこともあって、実はその子供の放課後等サービス福祉事業は1月31日をもって廃業することを決めたので、本日はパンフレットを持ってきておりません。

せっかくこの一年半で関わられた、30人近くの子供たち。その子供たちはどうなるんだろうなあっていうのもありますし、理解者のいる中で少人数の中でできた関わりが、その先の二次障害に繋がらない意味があるだろうなあっていうのを実感できたので、とても悔しいです。

それに伴って同時にスタートした、別団体に運営しているフリースクールの方も運営が難しくなっております。そもそもフリースクールは公的資金が入らないので、親さんの自己負担で運営しています。高山市の不登校の状況をお伝えすると、先日の市の教育委員会の講演会で話されたのは、令和3年度小中学生で130人ということでした。それは令和2年度の1.3倍以上が上っていて、令和5年度は、コロナ禍もあってもう少し上がっていると思います。その不登校というのは、年間に30日以上休んだ子をカウントしているので、実はその裏に、出席日数だけを見てもらうために朝一瞬顔を出すと、保健室登校だったりとか、行ったり行かなかったりのみだら登校、という子もたくさんいます。それは日本財団の調べでは不登校と言われる子供の数の三倍程度いると言われているので、この令和3年の数字だけ見てそれを合わせると500人程度の小中学生が今学校に普通に通うことができず孤立したり、自分を責めたりしているという現状があります。もちろんその子たちの対応として高山市は、宮に適応指導教室ということでであり塾を設置しているんですけども、であり塾では令和2年度は30名の登録だということでした。しかし実際には、登録していても通えていない子もいて、現実的にはその半数15名程度が日々通っている人数だと聞いております。となると残りの480~490の子たちは行き場がないです。今、私たちフリースクール、オルタナティブスクールを一年半前に始めましたが、もう一つ同じようなスクールを同時期からやってらっしゃる所、そこも運営はとても大変だと聞いております。私どものところは一日1500円の利用料で何とか運営しているんですが、1500円では人によってはやっぱりお休みの方もいらっしゃって人数が少ない日もありますので、ほとんどボランティアでやっているスタッフもいます。それを私たちもちもちびとで福祉サービスの方のスタッフと兼務したりとかで人的支援をしたり、また今日もですが、ひるねこで作った給食を届けたりとか、そういうやり方で、一緒に守ってきたんですけども、それすら出来なくなった今、なんとか子供たちの居場所を守りたいし、そこにも通ってない子供たちの、それこそ本当に500人近い子供達に、どうにか繋がって、そこに通わなくてもそういう場がある。この街に認めてくれる大人がいるっていうことを伝えるだけでも、生きる力になったり、自分を否定しないで生きていけるのではないかと思います。福祉医療機構の助成金650万円の企画書提出を目標にしている、ちょっと凶々しく企画書を入れさせていただいています。まず親さんの財源に関係なく子供の選択で誰でも通える、お金の掛からないフリースクールを一年間やることで、どれだけの子供たちがどのように感じたか、そのデ

ータを取り、その先に行政の委託事業として必要ではないかという訴える材料にしたいと思います。やはりまず子供たちがこの地域を好きになって、ここで育ってよかったと思える地域になるには、今すぐ大事な時だと思えます。

今日来て先ほどのロータリーソング「それでこそロータリー」。あの歌詞拝見して、街の中で子供たちの話を聞いてくれる大人がいて、「やあ」と言って「おい」と呼んでくれたらなって本当に思います。私たちには時間がなくて、うちの会社だけでは成り立っていかないのですが、子どもの権利を守れない街ではありたくない。実は私五人子供がいます。本当に五人五様で、それぞれに何が好きで何が得意で何が苦手で何が嫌いで、それぞれの個性を持っていて、育ち方が違うんだなって日々感じています。です、不登校は外れたことじゃなくて、育ち方の一つの選択肢であるということも知っていただけたらなと思います。

長くなりましたが、イベントのお知らせを入れさせていただきます。別の助成金を取って映画二本の上映会と、この地域の学校だったり、子供の居場所について話し合おうという座談会を行います。皆さんにもお子さんやお孫さんだったり、またご自分が子供の時代のことを思い出していただいて、また一緒に協力して頂ける、そういう地域にしていけることを願っております。どうもありがとうございました。

<ニコニコボックス>

●垣内 秀文さん、大村 貴之さん

本日は職業奉仕委員会担当例会です。ひるねこの野中桃子様、野尻牧様、お忙しい中お越し頂きありがとうございます。卓話楽しみにしています。

●田中 晶洋さん

本日は職業奉仕委員会担当例会です。一般社団法人もちもちびと代表の野中桃子様、自立訓練(生活訓練)ひるねこサービス管理者の野中牧様の来訪を歓迎いたします。卓話よろしくお願ひ致します。

●杉山 和宏さん

今朝の中京テレビで妻がフルーツカービングを披露しました。ひろみちお兄さんと共演でした。黙っているつもりでしたが早速向井さんにツッコまれましたのでニコニコいたします。

●長瀬 達三さん

先日は結婚祝い品をありがとうございました。サッカー日本代表の勝利に勇気と感動を頂きました。ブラボー！！

●岡田 賛三さん、平 義孝さん、米澤 久二さん、田中 武さん、

向井 公規さん、下屋 勝比古さん、松田 康弘さん

10年に一度の寒波が襲来しました。毎年のように過去最強寒波襲来と言われているような気もしますが、去る24日には雪が降る中恒例行事「24日市」も開催されました。まだまだ寒い日が続きますが来週2月3日は春を呼ぶイベント節分です。今年の恵方は南南東。無言で恵方巻を食べながら無病息災、世界の平和を願ひましょう。早くコロナが収束し穏やかな春が訪れます様に。